

氏名	中村裕美	部署	保健医療福祉学部作業療法学科・大学院保健医療福祉学研究科 兼任	職名	教授
研究分野	作業療法理論, 高齢期作業療法学, 地域作業療法学				
学位	博士				
学歴	最終学歴 公立大学法人首都大学東京 大学院 博士後期課程 人間健康科学研究科 人間健康科学専攻 作業療法科学域 修了				
経歴	2017年4月より現職				
所属学会(役職)	British Journal of Occupational Therapy (Editorial Board member) Royal College of Occupational Therapists (英国OT協会年次学術集会演題採択委員) World Federation of Occupational Therapists (学術集会演題採択委員) University of Illinois at Chicago, The Model of Human Occupation, Clearinghouse(リサーチフェロー) Queen Margret University (リサーチフェロー) 日本作業療法士協会(学術誌査読委員, 年次学術集会演題採択委員) 日本作業行動学会(評議委員) 臨床作業療法学会(学術誌査読委員) 日本公衆衛生学会				

【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	作業療法学OSCE基準マニュアル	共著	特定非営利活動法人 理学療法・作業療法共 用試験機構	中村裕美, 小池祐 二, 南雲浩隆, 濱口 豊太, 石岡俊之, 笹尾久美子, 川俣 実, 臼倉京子, 押野 修司	2018.August
(2) 論文					
1	Occupation-based practice:A new momentum in Japan	単著	British Journal of Occupational Therapy. 2018. 81(7): 367-368. doi:10.1177/0308022617753325 IF付国際学術誌	Nakamura HT	2018. July
2	Japanese community-living older adults' perceptions and solutions regarding their physical home environments	共著・筆頭	Home Health Care Management & Practice. 2019. 31(1):16-22. doi:10.1177/10848223.18806997 査読有国際学術誌	Nakamura HT, Kyougoku M, Bonsaksen T.	2019. January
3	Participation of children with disabilities in school:A realist systematic review of psychosocial and environmental factors	共著	PLON ONE. 2019. 14(1): e0210511. doi:10.1371/journal.pone.0210511 査読有国際学術誌	Mciver D, Rutherford M, Arakelyan S, Kramer JM, Richmond J, Todorova L, Romero-Ayuso R, Nakamura HT, tenVeldenM, Finlayson I, O' Hare A, Forsyth K.	2019. February

4	社会的ケア関連QOL尺度the Adult Social Care Outcomes Toolkit(ASCOT)の日本語翻訳 言語的妥当性の検討	共著	保健医療科学. 2018. 67(3):313-321. 査読有原著	森川美絵, 中村裕美, 森山葉子, 白岩健	2018. August
(3) 学会発表					
1	Validity and reliability of ASCOT, a new assessment measuring Quality of Life among older adults with social care services	共著・筆頭	International Forum on Quality & Safety in Healthcare, Amsterdam. 査読有	○Nakamura HT, Morikawa M, Shirowa T, Moriyama Y, Kyougoku M, Razik K, Malley J.	2018. May
2	要支援・介護高齢者の社会的ケア関連QOLを測定する評価尺度日本語版の構築	共著・筆頭	第52回日本作業療法学会. 名古屋. 査読有	○中村裕美, 京極真, 森川美絵, 白岩健, 森山葉子, Razik K, Malley J.	2018. September
3	The Comprehensive Environmental Questionnaire: Application of the CEQ for older adults requiring support for community-living	共著・筆頭	8th Interdisciplinary Conference of Aging & Society, Tokyo 査読有	○Nakamura HT, Kyougoku M, Yabuaki K.	2018. September
4	Cross-cultural validation of the Japanese version of Adult Social Care Outcomes Toolkit for Carers : Application for working adults who took care of family members	共著・筆頭	8th Interdisciplinary Conference of Aging & Society, Tokyo 査読有	○Nakamura HT, Yamaguchi M, Yamaguchi I, Matsuzawa A, Ohara M, Rand S, Razik K	2018. September
5	Cross-cultural validation of the Japanese version of Adult Social Care Outcomes Toolkit for Caregivers (ASCOT-CARER)	共著・筆頭	11th Pan-Pacific Conference on Rehabilitation, Kong Kong 査読有	○Nakamura HT, Yamaguchi M, Rand S, Razik K, Matsuzawa A, Yamaguchi I, Ohara M	2018. November
6	Standing postural stability during pulling up trousers in clients with hemiplegia	共著・筆頭	11th Pan-Pacific Conference on Rehabilitation, Kong Kong 査読有	○Nakamura HT, Torii S, Ishioka T, Hamaguchi T	2018. November
7	CIの病前の役割が反映された作業を取り入れた作業療法によって導かれたCIの社会参加	共著・corresponding author	第52回日本作業療法学会. 名古屋. 査読有	○関根典子, 薄木健吾, 栗原慶太, 成瀬康治, 中村裕美	2018. September
8	A case study of an old woman with a fracture of the metacarpal bone	共著・corresponding author	8th Interdisciplinary Conference of Aging & Society, Tokyo 査読有	○Narita D, Nakaki U, Ishii H, Higashida S, Nakamura TH.	2018. September
9	A Case Report of an Elderly Male Patient with Humeral Shaft Fracture Malunion	共著・corresponding author	8th Interdisciplinary Conference of Aging & Society, Tokyo 査読有	○Usuki K, Hondo R, Miyabe M, Nakamura TH.	2018. September
10	A pilot study of intervention with vibration and visual observation towards patients with distal radial fractures and surgeries	共著・corresponding author	11th Pan-Pacific Conference on Rehabilitation, Kong Kong 査読有	○Narita D, Suzuki T, Ishioka T, Hamaguchi T, Nakamura TH.	2018. November

11	Facilitation of health literacy toward frailty prevention among community-dwelling older adults: An interprofessional work-based project	共著	International Forum on Quality & Safety in Healthcare, Amsterdam 査読有	OZensho M, Sugano K, Kubota R, Fujinawa O, Nakamura TH, Kikumoto T, Toda H, Kohara H, Morikagi Y, Shiroiwa T,	2018. May
12	定型発達児の行動観察によるEnd-state comfort effectに基づく行動の学習	共著	第42回日本神経心理学会, 山形市 査読有	○石岡俊之, 飯田佐代子, 中村裕美, 濱口豊太	2018. September
13	日本語版ケアラー用社会的ケアQOL尺度(ASCOT Carer)の開発 開発のプロセスと課題	共著	第60回日本老年社会科学会, 東京都 査読有	○山口麻衣, 山口生史, 松沢明美, 中村裕美, 堀越栄子, 小原真知子, Stadey R, Kamilla R.	2018. June
14	Quality of Life of Working Carers in Super-aging Japan	共著	8th Interdisciplinary Conference of Aging & Society, Tokyo 査読有	○Yamaguchi M, Matsuzawa A, Horikoshi E, Nakamura TH, Yamaguchi I, Rand S, Razik K.	2018. September

(4) その他

該当なし

2. 競争的資金等の研究

	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	要支援の地域在住高齢者のための住生活の安全管理を支援する在宅健康プログラムの構築(研究代表者)	2015.April-2020.March
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)	ケアのアウトカム評価ツールの地域包括ケアシステムへの活用可能性に関する研究(研究分担者)	2016.April-2020.March
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究B)	ケアラーのQOLに焦点をあてた多面的なケアの質評価に基づく包括的ケアモデルの構築(研究分担者)	2016.April-2020.March
4	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	フレイル予防に資する地域高齢者ヘルスリテラシー様相の解明:IPW支援プロジェクト(研究分担者)	2016.April-2019.March
5	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	軽度認知障害から正常状態への回復を促進する包括的な役割・環境支援プログラムの開発(研究分担者)	2018.April-2021.March

3. 教育業績

	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義			
1	グローバルヘルス香港理工大学短期留学	2018.April-October	保健医療福祉科目・前期・集中:科目責任者として、香港理工大学担当者との連絡・交渉により確認したプロセスに基づき、履修希望者の事前準備(県助成制度へのエントリーを含む)を促し、渡航終了後は、香港理工大学担当者からの情報提供に基づき成績を管理し、学内報告会開催準備とオープンキャンパス用ポスター作製を支援した。
2	国外大学からの短期留学生を対象とした講義 Rehabilitation for community-living older Japanese people	2018. July-August	国外大学からの短期留学生(香港理工看護学生6名 作業療法学生2名)に対し、これまで授業で用い、また科研費で得てきた知見を英語で提供した。

3	国外大学からの短期留学生を対象とした講義 Understanding Japanese culture, society, attitude	2018. July-August	国外大学からの短期留学生(香港理工看護学生6名 チューリッヒ作業療法学生2名)に対し、日本の社会規範や文化的特徴への理解を深め 文化的有能性を向上させるための講義を英語で提供した。
(2) 演習			
1	臨床作業療法演習	2018.October-2019.February	作業療法学専門科目・後期・水曜日3時限:科目責任者として、当該マニュアル整備、客観的臨床技能評価OSCEの患者役となる臨床家の選定と招聘準備、OSCEのための患者役トレーニング、OSCE運営のための科目分担者との連携、演習実施、成績管理を通じて、学生にとって最初の臨地実習への準備を促した。
2	IPW演習	2018.August-October	共通科目・後期・集中:科目分担者:教員ファシリテーターとして、担当する医療機関の施設ファシリテーターとの連絡、学生への情報提供、演習中の討議促進、最終日の施設内発表会運営、最終日の地域別発表会の運営、学生成績の管理を行った。
3	国外大学からの短期留学生を対象とした演習 Workshop with SPU post-graduate Nursing students	2018. August	国外大学からの短期留学生のうち香港理工大学看護学部大学院生2名と、SPU看護学専修大学院生2名とで、英語による討議を促進した。SPU大学院生にとっては、就学内容や職務を英語で表現する機会となった。
4	国外大学からの短期留学生を用いた大学院生の演習 Workshop with SPU postgraduate students	2018. August	国外大学からの短期留学生のうちチューリッヒ作業療法学生2名を活用し、大学院リハビリテーション専修に在籍する大学院生が 英語で自身の研究内容を発表する機会を設けた。SPU街学院生にとっては、国際学術集会の予行演習の機会となった。
(3) 実習			
1	臨地実習 I -3(地域領域)	2018.April-2019.March	作業療法学専門科目・後期・集中:科目責任者として、臨地実習施設獲得、臨地実習指導者会議開催、臨地実習指導者会議不参加の指導者との連絡、複数回の事前オリエンテーション、学生の臨地実習指導者会議への準備促進、当該マニュアル整備、臨地実習中の臨床指導者との連絡、成績管理、報告書作成を行った。
2	高齢期作業療法学実習	2018.October-2019.February	作業療法学専門科目・後期・金曜日1-2時限:科目責任者として、ゲストスピーカー調整、学内実習環境整備、成績管理を行った。ゲストスピーカーについては、循環器リハと認知症リハに特化して臨床実践家を招聘した。
3	臨地実習 II	2018.April-July	科目分担者として身体機能領域および精神機能領域の実習施設に配属されている学生の実習中の中間訪問を行い、学生、臨地実習指導者のそれぞれと面談した。
4	国外大学からの短期留学生を対象とした病院体験実習 Fieldwork activities in Dokkyo Medical University affiliated Hospital and Soka municipal hospital	2018 August	国外大学からの短期留学生(香港理工看護学生6名 チューリッヒ作業療法学生2名)を引率し、医療機関での体験実習実習を行った。事前オリエンテーション、病院実習中の病院の実習担当者との連絡調整、実習中の通訳、留学生レポートを翻訳・集約し病院の実習担当者に向けた報告書を作成した。
(4) 論文指導			
1	大学院博士前期課程	2018.April-2019.March	主指導1名:データ解析と、国際学会発表案件2編を支援した。副指導2名:研究の推進を支援した。
2	学部学生卒業課題研究	2018.April-2019.March	4年次学生主指導3名:倫理審査書類整備、研究フィールド獲得、データ分析、中間発表会、最終審査のための発表会、論文構築という一連の研究プロセスを支援した。
3	大学院博士前期課程特別研究発表会主査	2018October	主査として中間発表会の質疑に携わった。

(5) その他			
	該当なし		
4. 社会貢献活動			
(1) 講演会、研修会等の講師			
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ
1	30th Anniversary International Conference of College of Rehabilitation Science Deagu University 招聘講演: 基調講演	Deagu University	Occupation based Practice (OBP): A new trend in Japan based on OT history and professional identity crisis
2	QOL/PRO研究会 第6回研究学術集会 招聘講演: シンポジスト	QOL/PRO研究会	ASCOTの信頼性・妥当性の検討
			開催年月
			2018. June
			2018. December
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等			
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期
1	越谷市介護給付費等の支給に関する審議委員会	委員	2013.April-現在
2	豊島区区民ひろば課WHO認証プロジェクト セーフコミュニティ	委員	2013.April-現在
3	British Journal of Occupational Therapy	Editorial Board member	2016.September-現在
4	Royal College of Occupaitonal Therapists	英国OT協会年次学術集会演題採択委員	2015.September-現在
5	World Federation of Occupational Therapists	学術集会演題採択委員	2013.September-現在
6	日本作業療法士協会	学術誌査読委員, 年次学術集会演題採択委員	2014.April-現在
7	日本作業行動学会	評議委員	2012.April-現在
8	臨床作業療法学会	学術誌査読委員	2017.April-現在
(3) ジャーナリズムでの発言			
	メディア等の名称	内容	年月
	該当なし		
5. 学内運営(委員会委員)			
1	奨励研究部会 部員		
2	国際交流委員会 委員		
3	大学院FD企画部会 部員		
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
	該当なし		
8. 特記事項			
	該当なし		